



平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス
コード番号 9861 URL <http://www.yoshinova-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 斎藤 公利

TEL 03-4332-9701

四半期報告書提出予定日 平成27年1月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	132,796	4.0	1,422	304.8	1,788	74.3	478	—
26年2月期第3四半期	127,663	5.7	351	△70.8	1,026	△36.5	△276	—

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 489百万円 (—%) 26年2月期第3四半期 △83百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	8.51	—
26年2月期第3四半期	△5.38	—

(注) 平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年2月期第3四半期	107,630	58,144	53.5
26年2月期	95,524	43,412	44.8

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 57,539百万円 26年2月期 42,749百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	1,000.00	—	10.00	—
27年2月期	—	10.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付けで、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成26年2月期における第2四半期末の配当金につきましては、株式分割前の数値で算定しておりますが、期末の配当金につきましては、株式分割後の数値で算定しております。

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	175,000	0.9	3,300	51.4	3,700	13.1	1,000	43.3	19.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年2月期3Q	63,940,500 株	26年2月期	66,240,500 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

27年2月期3Q	600,800 株	26年2月期	14,845,900 株
----------	-----------	--------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年2月期3Q	56,202,508 株	26年2月期3Q	51,394,600 株
----------	--------------	----------	--------------

(注) 平成26年7月25日開催の取締役会決議に基づき、公募による自己株式の処分(10,900,000株)、第三者割当による自己株式の処分(1,045,100株)及び自己株式の消却(2,300,000株)を行っております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	P. 4
4. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年3月1日から平成26年11月30日)の連結業績は、連結売上高が1,327億96百万円(前年同期比4.0%増)、連結営業利益は14億22百万円(前年同期比304.8%増)、連結経常利益17億88百万円(前年同期比74.3%増)、連結四半期純利益4億78百万円(前年同四半期は連結四半期純損失2億76百万円)となりました。

当社グループは、成長テーマである「リ・イノベーション」を実現していくため、よりスピーディな意思決定が可能となるグループ経営体制への見直しを進めております。前期より開始したグループ間での人事交流の活性化、グループ商品本部による仕入れの共通化や、(株)吉野家インターナショナルによるグループ各社の海外事業展開の統括も開始いたします。また、指導・監督層や幹部候補層の人材にリーダー教育を実施していく「グループアカデミー」も本格稼働いたします。「リ・イノベーション」の実現のため、ダイバーシティ(人材構成の多様化)の推進も引き続き行ってまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更しております。以下の前年同四半期との比較については、前年同四半期の数値を変更後の区分に基づき作成した数値で比較しております。セグメント区分の変更の詳細につきましては、P.10「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

[国内吉野家]

国内吉野家の同期間の連結売上高は、703億66百万円と、対前年同期比3.4%の増収となりました。

国内吉野家では、4月から商品価格の見直しを実施すると共に、牛丼の品質向上に取り組ましました。圧倒的に「うまい」牛丼を目指し、熟成肉を使用する等、牛丼の重要な3要素である「牛肉」「たれ」「玉ねぎ」の品質向上に取り組ましました。7月からは夏向けコンロ商品として、牛肉とたっぷりの野菜のバランスにこだわった「牛バラ野菜焼定食」を開発し発売いたしました。また、10月からは、昨年来、ご好評をいただいております「牛すき鍋膳」「牛チゲ鍋膳」の全国販売を開始いたしました。今年の鍋膳は熟成肉を使用し、更に旨みを増した商品設計とし、販売数も好調に推移しております。セグメント利益は、食材原価の高騰は、前期から継続しているものの、増収により、22億9百万円と、対前年同期比68.2%の増益となりました。同期間の店舗数は、22店舗を出店し、18店舗を閉鎖した結果、1,195店舗となりました。

[海外吉野家]

海外吉野家の同期間の連結売上高は、104億10百万円と、対前年同期比12.4%の増収となりました。

増収の主な要因は、円安の影響に加え米国でのクーポンセールが好調に推移したことで既存店売上高が増加したこと等によります。セグメント利益は、増収により、2億99百万円と、対前年同期比50.3%の増益となりました。同期間の店舗数は、36店舗を出店し、32店舗を閉鎖した結果、640店舗となりました。

[はなまる]

はなまるの同期間の連結売上高は、150億87百万円と、対前年同期比6.6%の増収となりました。

増収の主な要因は、店舗数の増加に加え、既存店売上高が増加したこと等によります。5月にあらゆる立地に出店可能となる自慢のかけだしを活かした新業態「はなまる屋」をオープンしました。また、9月には脂と赤身のバランスがよい牛バラ肉を甘辛く味付け コクと豊かな風味を味わえる「牛肉うどん」を発売いたしました。さらに11月に讃岐うどんの定番を大胆にアレンジした“はなまる流”のこれまでにない新たな「かま玉」のメニュー開発に取り組みました。セグメント利益は、増収により、7億45百万円と、対前年同期比29.5%の増益となりました。同期間の店舗数は、23店舗を出店し、10店舗を閉鎖した結果、369店舗となりました。

[どん]

どんの同期間の連結売上高は、174億20百万円と、対前年同期比6.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、フォルクス及びステーキのどんの店舗改装効果等により、既存店売上高前年比が+6.5%となったことによります。また、全業態で店舗活性化策の実践に取組み、「ステーキのどん」では、4月から多くのお客様から復活を要望されておりました「どんステーキ」の進化版「どんステグリル」を発売しました。しかしながら食材原価の高騰によりセグメント利益は、67百万円と、対前年同期比54.6%の減益となりました。同期間の店舗数は、5店舗を出店し、2店舗を閉鎖した結果、178店舗となりました。

[京樽]

京樽の同期間の連結売上高は、181億10百万円と、対前年同期比3.3%の増収となりました。

増収の主な要因は、前期から推し進めている「原点回帰」のもと、商品の上質化やサービス向上策及び販売促進策が奏功し、既存店売上前年比が+0.9%となったこと等によります。セグメント利益は、増収により、1億25百万円と、対前年同期比2億24百万円の増益となりました。同期間の店舗数は、10店舗を出店し、10店舗を閉鎖した結果、328店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,076億30百万円となり、前連結会計年度末に比べ121億5百万円の増加となりました。これは主として、現金及び預金が93億96百万円増加したことと、受取手形及び売掛金が7億71百万円増加したことによるものです。

負債は494億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ26億26百万円の減少となりました。これは主として、短期借入金に125億93百万円減少し、長期借入金が55億88百万円増加したことによるものです。

純資産は581億44百万円となり、前連結会計年度末に比べ147億31百万円の増加となりました。これは主として、自己株式が173億56百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の通期の業績予想につきましては、平成26年4月11日の決算短信発表時に公表いたしました数値から修正はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,174	27,571
受取手形及び売掛金	3,412	4,184
商品及び製品	2,826	2,709
仕掛品	55	23
原材料及び貯蔵品	2,868	2,959
その他	2,746	3,654
貸倒引当金	△3	△5
流動資産合計	30,079	41,096
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,803	25,851
その他(純額)	13,432	14,502
有形固定資産合計	38,236	40,353
無形固定資産		
のれん	1,471	1,313
その他	2,025	1,889
無形固定資産合計	3,497	3,202
投資その他の資産		
投資有価証券	1,087	1,199
差入保証金	15,142	15,009
繰延税金資産	929	722
その他	6,732	6,217
貸倒引当金	△181	△170
投資その他の資産合計	23,710	22,977
固定資産合計	65,444	66,534
資産合計	95,524	107,630

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,776	5,765
短期借入金	17,698	5,105
1年内返済予定の長期借入金	4,614	4,336
リース債務	606	754
未払法人税等	1,455	781
賞与引当金	1,359	852
役員賞与引当金	112	59
株主優待引当金	216	437
資産除去債務	8	19
その他	7,823	12,535
流動負債合計	38,673	30,649
固定負債		
社債	750	750
長期借入金	6,725	12,314
リース債務	1,096	1,524
退職給付引当金	626	635
資産除去債務	2,318	2,314
その他	1,921	1,296
固定負債合計	13,438	18,836
負債合計	52,112	49,485
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,139	11,139
利益剰余金	40,776	38,088
自己株式	△18,089	△733
株主資本合計	44,091	58,759
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3	5
為替換算調整勘定	△1,339	△1,214
その他の包括利益累計額合計	△1,342	△1,209
少数株主持分	663	594
純資産合計	43,412	58,144
負債純資産合計	95,524	107,630

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	127,663	132,796
売上原価	48,165	49,788
売上総利益	79,497	83,008
販売費及び一般管理費	79,146	81,586
営業利益	351	1,422
営業外収益		
受取利息	33	35
受取配当金	206	114
賃貸収入	286	280
持分法による投資利益	55	49
雑収入	699	497
営業外収益合計	1,281	977
営業外費用		
支払利息	270	231
賃貸費用	206	215
雑損失	129	164
営業外費用合計	606	610
経常利益	1,026	1,788
特別利益		
固定資産売却益	-	340
特別利益合計	-	340
特別損失		
減損損失	453	498
契約解約損	56	83
特別損失合計	510	581
税金等調整前四半期純利益	515	1,547
法人税、住民税及び事業税	985	1,272
法人税等調整額	△106	△119
法人税等合計	878	1,152
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△363	394
少数株主損失(△)	△86	△83
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△276	478

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△363	394
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	9
為替換算調整勘定	277	85
その他の包括利益合計	279	94
四半期包括利益	△83	489
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△42	571
少数株主に係る四半期包括利益	△40	△82

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年8月11日を払込期日とする公募による自己株式の処分(一般募集)を行い自己株式処分差益が7億33百万円発生したことにより、当第3四半期連結累計期間において同額資本剰余金が増加するとともに、自己株式が132億80百万円減少しております。

また、平成26年8月26日を払込期日とする第三者割当による自己株式の処分(オーバーアロットメントによる当社株式の売出しに関連する第三者割当)を行い自己株式処分差益が70百万円発生したことにより、当第3四半期連結累計期間において同額資本剰余金が増加するとともに、自己株式が12億73百万円減少しております。

また、平成26年7月25日開催の取締役会決議に基づき、平成26年8月28日に自己株式2,300,000株の消却を行っており、資本剰余金が8億3百万円、利益剰余金が19億98百万円及び自己株式が28億2百万円それぞれ減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が111億39百万円、利益剰余金が380億88百万円、自己株式が7億33百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	国内 吉野家	海外 吉野家	はなまる	どん	京樽	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	67,249	9,262	14,148	16,284	17,476	124,421	3,241	127,663	—	127,663
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	804	—	—	45	62	912	309	1,222	△1,222	—
計	68,053	9,262	14,148	16,330	17,538	125,334	3,551	128,886	△1,222	127,663
セグメント利益 又は損失(△)	1,313	199	575	149	△98	2,139	30	2,170	△1,818	351

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社4社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,818百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,870百万円、セグメント間取引消去165百万円、及びのれんの償却額△113百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	国内 吉野家	海外 吉野家	はなまる	どん	京樽	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	69,776	10,410	15,047	17,413	18,046	130,694	2,102	132,796	—	132,796
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	589	—	40	6	64	700	401	1,102	△1,102	—
計	70,366	10,410	15,087	17,420	18,110	131,395	2,504	133,899	△1,102	132,796
セグメント利益 又は損失(△)	2,209	299	745	67	125	3,448	△34	3,413	△1,991	1,422

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社4社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,991百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,069百万円、セグメント間取引消去191百万円、及びのれんの償却額△113百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の事業再編に伴い、従来「その他」に属しておりました株式会社千吉の事業を「はなまる」セグメントの区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。